



# The Episcopal Diocese of Olympia

The Episcopal Church in Western Washington

[www.ecww.org](http://www.ecww.org)

## 礼拝説教改訂版カーラ・ロビンソン - 2021年4月25日

善き羊飼いととしてのイエスの像は教会の歴史の中でも最も古い像のひとつで、至る所で目にします。この像は、膨大な数の宗教資料、瞑想、書物、説教、あらゆる種類の芸術作品、ステンドグラスの窓、彫刻、彫像、音楽、長編、短編、賛美歌、歌にインスピレーションを与えてきました。この名前は、教会の建物や病院動物病院にも掲げられています。そして毎年イースターの季節になると、この像が登場します。

これは当然とも言えます。この像は、キリストと神の民との関係を表す強烈なイメージだからです。像は全て関係を表しているのです。この像は、善い羊飼いと呼ばれていますが、私はむしろ羊の群れの中にいる善い羊飼いと呼ぶべきだと思います。羊の群れの中にいない羊飼いは、羊飼いのいない羊の群れよりも意味を成さないと思うからです。羊の群れと羊飼いはセットで初めて意味を成すのです。これは関係を表す像で、キリストは福音書の中で本章の冒頭から最高潮の場面までこのイメージを織り込んでいるのです。最高潮の場面でキリストは羊の群れと羊飼いに向かって「私は善い羊飼いである」とイエスは言い、キリストは私たちに純粋な真の関係へと導いてくれたのです。

昔、母は私たちに言いました。「いいこと、ママには何を言っても信じさせることができるけど、神様にはお見通しよ」母は、私に神を恐れさせるためではなく、神との親密性についてのイメージを抱かせるために、こう言ったのです。だからイエスと共にあることで、純粋であるもの全てに対して心をさらけ出すことができるのです。つまり、怒り、不満、心配、恐怖、不安を抱えている時でも、天井で踊りだすほど幸せな時も、玄関口で潜り込んでしまいたいほど落ち込んだ時も、心をさらけ出すことができます。私たちは、この純粋な関係において、全てをさらけ出すことができます。

この純粋な関係は、人生においてもっと強固な関係の構築のための一歩を踏み出すインスピレーションを与えてくれます。完璧な関係とまでは言いませんが、一歩踏み出すためのインスピレーションをくれるのです。今回の新型コロナウイルス感染拡大により、人間関係に大きな影響を与えました。私たちは断ち切られたのです。多くの人が、神の食卓を囲み、神の民と集い、ハグや挨拶を交わすという慣れ親しんだパターンから突然切り離されてしまいました。しかしこれにより、奇妙な新しい習慣が生まれたのです。新しい習慣というより、古い習慣が復活したと言うほうが適切でしょうか。それは、安否を気遣う習慣です。お互いに離れているので、普段よりも「あの人はどうしているかな？」と考える時間があるのかもしれませんが。だから、電話やZoomチャット、更には昔

ながらの手紙やハガキで「元気になっていますか？」とシンプルな質問をするようになったのです。

私たちは皆、再会できることを楽しみにしていますが、私はこの「安否を気遣う習慣」を続けることを強く勧めたいと思います。ジョニー・キャッシュはロープで固く結ばれた絆の端を離さないと言っています。自分たちがやっていること、自分たちの文化や国で起こっている大きな事件、安否を気遣う機会として捉えてみてはいかがでしょうか。例を挙げてみましょう。数週間前、ジョージア州で起きた事件は、私たちを恐怖に陥れました。私たちの同胞であるアジア系の姉妹が標的にされ、切りつけられ、殺されたのです。キリスト教の文化として私たちは強いショックを受けましたが、アジア系の人たちはもっと辛い思いをしたでしょう。こんな時こそ、安否を気遣う機会です。「ねえ、会衆にいたAさんのことだけど、元気なのかしら？あなたは元気にやっている？」と質問する機会です。これは些細な質問です。新しい、輝かしい関係を構築することはないかもしれませんが、関係を一歩進めるための扉を開く質問です。

イエスは「私は善い羊飼いである」と言い、私たちをたくさんの行動を伴う関係へと誘いました。羊にやるべきことがたくさんあるだろうか、と思われたでしょう。羊は退屈な動物じゃないか、あまりやることもないし、座っていて「バァー」と鳴いているだけで、私たちは羊毛が手に入り、皆が満足していると思われるでしょう。実際には、羊飼いや群れの中の羊は、たくさんのことをやらなければなりません。一日中じっとしているわけではないのです。囲いの中にも、行ったり来たりしています。牧場では、羊飼いが群れを新しい新鮮な場所に導くために、時には何マイルも旅をすることもありました。季節の変化に伴い風景が変わることを知っているのも、適切な量の水を求めて何マイルも旅をすることです。時には危険な峠を越えることもあります。群れの羊でいるには、やるべきことがたくさんあります。

羊飼いは、突然危険と隣り合わせの状況や生死に関わる状況に陥る可能性があります。そんな時、羊飼いは瞬時に決断を下さなければいけません。何をすべきか決めるのです。これはアクション満載の人生です。イエスは自ら「私は自分の羊を愛し、彼らのために命を捨てる」と言っています。このことばは、彼の心が羊の群れのために行動するように彼自身を導いていることを示しています。この福音書の教訓で彼が主張しているのは、自ら進んで命を捨てるということです。命を奪われることではありません。銃口を突き付けられて強制されているわけでもありません。それは、彼の中に湧き上がる驚くべき自己犠牲の愛から来る行動で、彼の顔と人生と同じように、その愛はこの世に転生されているのです。私は自分の命を捨てる、と彼は言いました。私がこの仕事を引き受ける、私が行動する、私がこの一歩を踏み出すと。

そして私たちは聖書全体を読んで、彼がまさにその通りの行動をとったことを知っています。ピリピ人への手紙には、イエスが神との平等を捨てて奴隷の役を受け、自己犠牲による愛の人生を送ったことが書かれています。私たちは、彼が奉仕と癒しのために自分の命を捨てたことを知っています。彼が真実を語り、権力者が彼の言葉を反響し、反抗しようとしていることを知りながら、彼が命を捨てたことを知っています。彼が最後に息を引き取る十字架の上でさえ、彼が命を捧げることも。

しかし、実際のところ、死んだ羊飼いが何の役に立つというのでしょうか？羊飼いの死は群れの終焉を意味するだけではないのでしょうか？イエスは「私は命を捨てたが、よみがえる力もある」と言いました。そして、栄光の復活を遂げても、自分のために命を大切にすることはありませんでした。彼は、自分が墓の中からよみがえらせた命を自由に与えたのです。それは彼が遠くへ広く投げかける命なのです。そして、彼は昇天する中で、自分が始めたアクション満載の職務を継続させるために教会に聖霊を与えたのです。

「私は善い羊飼いである」とイエスは言い、ダイナミックな関係へと私たちを導きます。イエスが現状に満足していないことは明らかです。通常通りの生活も好まないようです。それは、彼のやり方ではないようです。実際、この教訓の中で、イエスは私がいとも印象的で少し怖いと思うようなことばを発しています。彼は、お互いに分かり合うようになってきた羊の群れに対して、イエスと一緒にいることで優位に立ち、少し油断していたかもしれない群れに対して、次のように言います。「私には、この囲いに入っていない他の羊たちもいる。その羊たちも導かなければならない」何て奇妙なセリフでしょう。「やらなければならぬ。彼らを導かなければならぬ。名案だからやるというわけではない。やらなければならぬのだ」他の羊たちは必要なのです。

このセリフには、像に羊の群れが含まれている理由が込められています。古代の羊の群れでは、羊飼いが意図的に他の羊を連れてくることがありましたが、それには非常に大きな理由がありました。他の羊が来て、混ざり合い、交配し、子孫を残すことで、羊の群れが強くなるのです。免疫力が発達します。群れは病気にかかりにくくなります。科学の世界では、これが遺伝的多様性だと言われています。他の羊を連れてくることのが種の強化につながるのです。この話を引き戻して、教会に当てはめてみましょう。多様性をもたらすという神の願いについて語ることは、正義をふりかざすための装飾ではありません。これは、私たちが私たちであるために不可欠なのです。生き残るために必要なのです。私たちが他の羊を連れてくるという神の行為の素晴らしさを理解しなければ、この教会は終わってしまうと言っても過言ではありません。他の羊についてですが、他の羊についてもう少し具体的に話しましょう。

他の羊とは、あなた方と類似点が少ない人々のことです。私と似ている部分がない人たち、英語を母国語としない人たち、遠く離れた場所から来た人たち、文化がまだ発達していない地域や、数世紀または数千年前にさかのぼる古い文化を持つ地域から来た人たちのことです。神が多様性を求めているのは、神が親切なリベラル派だからというだけではありません。イエスは、私たちが生き残るためにそれが不可欠だと理解しているからです。この多様性により、群れ全体が利益を得ることができます。私たちは善い羊飼いの素晴らしい愛についての理解を深め、その反映するための能力を高めるのです。

しかし、どこから始めたらいいのでしょうか？ 私たちの中には不安な人もいます。少し躊躇している人もいるでしょう。始めたいけど、方法がよくわからない人もいるでしょう。OK、魔法の答えが聞きたいですか？ 答えはここにあります。先ほど私がお話した方法です。今まで聞いていて、ちょっとうとうとしちゃった人、いいですか。起きてください。これが魔法の答えで、これからやるべきことです。いくつかは既にお話したことです。安否を気遣うことについてお話したことを覚えていますか？「元気にしていますか？」と問いかけることです。行動を起こすべき、実行に移すべき教会や人々の仕事について覚えていますか？これが、私たちが一緒にやるべきことの一部です。私は魔法の公式を持っていませんが、私たちにはイエスの言葉があります。私たちには、失敗と成功を繰り返してきた教会の歴史があります。それが、ここにあるのです。

私たちにできるかですって？ 質問が間違っています。イエスを死からよみがえらせたのと同じ力が、私たちの中にも存在すると言われていました。これは、できるかできないかの問題ではありません。できるかどうかではなく、やるかどうかの問題なのです。そして、それさえが問題です。これが神を知る方法だと言われた時、この世界で何をどうやって止めたり、止めることを願ったりできるのでしょうか？神が私たちの中におられることを、どうすれば知ることができるのでしょうか？この質問に対して、ヨハネは「そこに存在する愛によって、お互いに愛し合うことで知ることができる」と答えています。これで、神と一体になれるのです。時々理解したような気になります。神との関係について。イエス、私たち、キリスト、教会、善き羊飼い、羊の群れ。形成され、融合され、曲げられても存続している関係です。それを感じることもできます。抱きしめることもできます。耳を傾けると、心臓の鼓動のように聞こえます。

それはイエス、私たち、教会、キリスト、羊飼い、羊の関係です。リズムがありますよね？この関係はあなたの頭の中だけでなく、心の中にもあるのです。体の中にも存在します。羊飼いと羊。教会とキリスト。ほら、言ってみてください。ことばの意味が理解できるでしょう。意味を理解したと思ったとたん、イエスはその意味を変えるのです。神父。誰でしょう？神父。誰？神父。そうです。

神父、羊飼い、羊。神父、羊飼い、羊。神父、羊飼い、羊。神父、羊飼い、羊。そう。神父、羊飼い、羊。善き羊飼い。神父、羊飼い、羊はあなた方のことを知っています。神父、羊飼い、羊はあなた方のことを愛しています。神父、羊飼い、羊は命を投げ出します。生きて亡くなります。亡くなって天に昇ります。神父、羊飼い、羊。そう。神父、羊飼い、羊の群れ。その群れ。神父、羊飼い、羊の群れ。他の羊たち。神父、羊飼い、羊の群れ。新しく来た羊、年老いた羊、若い羊、他の羊はみんな羊です。ひとつの群れ。

(マイクが落ちる) ここで終わりにします。いえ。この終わり方ではいけません。最後に真実について確認しましょう。真実の神の愛は存在します。キリストの中にある真実は存在します。精霊の真実は存在します。そう、それが真実です。アーメンそれが真実です。アーメン